

令和7年度 第1回 舟橋村立舟橋小中学校 学校運営協議会 会議録（概要）

- 1 日 時 令和7年6月6日(金)15:30~16:45
- 2 場 所 舟橋村役場 3階ホール
- 3 出席者 良峯 喜久男（舟橋中学校同窓会長） 前原 英石（スポーツ協会会長）
深川 敦夫（自治会連合会長） 上田 久美子（舟橋小学校育成会長）
戸谷 史（舟橋中学校育成会長） 藤井 昭彦（舟橋小学校長）
有山 博子（舟橋中学校長） 深川 泉美（社会教育委員代表）
京角 由美（主任児童委員） 高野 良子（舟橋図書館名誉館長）
高島 正美（舟橋会館長） 野村 智浩（統括コーディネーター）
沙魚川 恵子（活動推進員） 馬場 章博（活動推進員）
- 欠席者 桜井 利夫（立山舟橋商工会舟橋支部長） 綿引 正則（社会福祉協議会長）
- 事務局 土田 聡（教育長） 海見 英理（舟橋小学校教頭）
入部 宏樹（舟橋小学校教務主任） 松井 功一（舟橋中学校教頭）
作田 恵美（舟橋中学校教務主任） 五十里 雅宏（社会教育係長）
平澤 千織（学校教育係主任） 加藤 美希（学校教育係主任）

4 内 容

(1) 開会挨拶 <良峯会長>

- ・本村における地域と共にある学校をより充実するため、小中学校合同の運営協議会を令和4年度から設置して取り組みを進めてまいりました。
- ・今年度は小学校、中学校共に新任の校長先生が赴任されております。
- ・中学校では5月31日に創立75周年式典が開催され、第2部交流イベントでは、吹奏楽部と卒業生とのコラボ演奏。「先輩に学ぶグループトーク-未来に向けて-」では、渡辺村長、古川議長など15名のゲストティーチャーが中学生と交流していただきました。
- ・小学校中学校から小中一貫教育及び学校の運営について、事務局から今年度の学校運営協議会の取り組みについて説明をしていただき、それを受けまして委員の皆様から建設的なご意見いただき、承認をいただきたくお願いいたします。

(2) 協議事項

①小中一貫教育について <有山校長>

- ・平成28年度から30年度までの3年間、文部科学省から委託された小中機関教育推進事業に端を発し、舟橋村における小中一貫教育はスタートしました。この資料舟橋村9年間の学びの世界構想は、その際に舟橋村教育委員会、舟橋小学校、舟橋中学校が連携して作成したものです。この協議会の委員の方の中にも体制を整え、実践を推進する過程でご尽力くださった方々がいらっしゃいます。
- ・小中一貫の視点として、4つ地域連携、人格形成、健全育成、協働学習が掲げられています。そして、それぞれに【ふなはし】の一文字ずつを頭に据えて目指す児童生徒像があります。この児童生徒像は、発達の段階を踏まえ、小学校で培った基礎基本の上に中学校で発展的な力を積み上げることを考えております。

・【ふ】の地域連携は地域ぐるみのコーディネートなど総括的な内容を担い、残りの【な】【は】【し】は「知」「徳」「体」それぞれの内容を担っているの、舟橋村における教育活動全般の概要を示しています。さらに、その下の項目には令和7年度推進の重点実践の中心となる組織、過去3年間の実践概要が続いています。

・これまで9年間継続してきた中で、柱として上り評価を得ているものも多々あります。「知」にかかる【し】の要となり、ふなはし学び合いスタイルの実践は、令和元年に教育奨励賞に推薦され、努力賞全国30校に選ばれました。

・資料の裏面の方には、小学校の低学年・中学年・高学年そして中学校と発達の段階に合わせて実践している、ふなはし学び合いスタイルを掲載いたしました。

・次に「徳」にかかる【な】については、舟橋村立図書館による支援を受けて実現した、特色ある読書活動が昨年度高く評価され、子ども読書活動を優秀実践校として文部科学大臣表彰を受けました。

・「体」にかかる【は】については、小学5年生と中学2年生を含む地域学校保健委員会を今月予定しております。

・一方で新たな実践として着目していただきたいのは、地域の機関への協力依頼と活動のコーディネート、自然や人の絆でつながるふるさと教育です。これまでは舟橋小学校の総合的な学習の時間を核として、児童生徒が川に関わる学習を通して、鮭やサクラマス、ホタルなどの水辺の生き物が住める環境保全、沿岸の公園整備などを展開してきました。そして、その過程で生まれた課題を解決するため、村民をはじめ、村行政や村議会にも働きかけました。今年度は、川に着目した実践から舟橋村全体へと視野を広げ、中学生がより広範囲な問題を整理し、広く発信していく見通しです。

・本協議会の委員名簿でもご紹介のある、舟橋テトラ協働本部の皆様には学校と地域をつないでいただき、明確な目的を持ってより良い活動となる支援を賜っております。今後とも、家庭・学校・行政・地域の連携した舟橋小中学校コミュニティスクール体制にて、小中一貫教育を推進していきたいと考えております。

②各学校の運営方針について

◎舟橋小学校 〈藤井校長〉

・まず、目指す子供像を支えるものとして「笑顔をかがやく 魅力ある学校」を。これは、毎日行くのが楽しい学校を目指しております。また、「自信と誇りを持って 子供と向き合う教職員」を理想の教職員像として考えております。基本がしっかりし、授業力や人間的魅力といったものを、それぞれの人生のステージで実現できているということとっております。

・重点目標ですが「主体性と挑戦心の育成」としました。主体性は、指示がなくても何をすべきかを自ら考え行動することを、挑戦心は、課題や問題にも恐れずに取り組もうとする姿を示すものです。舟橋小学校は明るく素直な子供が多いです。そんな子供たちに、人前を出て進んで自分を表現する場を、機会があれば取り入れることで、それが経験となり回数を重ねることで自信を持って物事に取り組んでいけるのではないかと考えております。失敗を恐れず、自分から進んでいろんなことに挑戦して行ってほしいと思っております。家庭や地域でも、子供たちの頑張りをぜひ温かく見守っていただければ幸いです。

・教職員においては、まずは子供に対する言葉遣いや、その内容、そして対応について愛があるものであってほしい。そして温かくて居心地の良い学校づくりに努めてほしいと思っております。そして、学年や地域の方々も含めた他者との関わりを積極的に仕組んだり、活動後に自己を見つめ、振り返る場を工夫したりことで、確かな学力を身につけるようにしてほしいと考えております。

・アクションプランとして「思いやりの心の育成」では、今年度も引き続き挨拶を取り上げています。登校下校の際には子供たちがよく挨拶をしてくれています。挨拶をすることを常識として、その姿が広がることを期待しているところです。

・「望ましい生活習慣の育成」では、朝ごはんの摂取や内容に目を向けるようにしていきたいと考えております。

・ふなはし学び合いスタイルでは、今年度も話し上手聞き上手に力を入れております。しっかりと聞くことで自分の意見に結びつけ、そしてその作り上げた自分の考えを相手に伝えられるように実践を重ねていきたいと思っております。今年度は挑戦心の育成を掲げていますので、積極的に友達に自分の考えを伝えられるような授業をクラスでやってほしいと思っております。

・それから【ふなはし】についてですが、舟橋村を愛し、友達と仲良く積極的に体を動かし、しっかり考える自分にしてほしいと思っております。

・まず【ふ】は、地域の人的・物的資源を最大限に生かした活動です。特に自然体験活動から得られる喜びや協調性等を大事なものという風に考えております。

・【な】が、道徳教育、人権教育、読書活動のさらなる推進です。村立図書館の力強いご支援もあり、子供たちは恵まれた環境にあると思っております。

・【は】体を動かし、環境教育などにも積極的に取り組んでいきたいと思えます。

・【し】は教職員のさらなる事業改善だと思っております。

・学校 HP で学校たよりや学校要覧の QR コード掲載してあります。より開かれた学校を目指し、メールを活用した資料や写真データも取得しております。今年度は事業における ICT を活用した特別支援教育や共同的な学びについても研究を深め事業に出していきます。

◎舟橋中学校 〈有山校長〉

・中学校としては小学校の学びの上にさらに展開することを、卒業した後舟橋から外に羽ばたいていくことを考えて、学校運営方針を考えております。

・まず、校訓は「学ぶ」となります。「学ぶ」とは、当事者意識を持って、つまりは何でも自分事として新たな気づきを得ようとする姿勢、そういうものを子供だけでなく、職員みんなで大切にしていきたい、そして自分の可能性を子供だけではなく、職員と一緒にあきらめない場所にしていきたいということです。

・学校の教育目標は「学びの精神を持ち、仲間を思いやり、たくましく生きる生徒の育成」です。これを受けて、育てたい目指す生徒像があります。基盤となる自主、自立や自他の自由と個や集団の責任を大切にする生徒を育てるということです。このような生徒像を実現するにあたって目指す学校像は「信頼される学校」です。健康・安全な生活を基盤として、人間的社会的な成長を目指す学校。では、そのような学校にするためには、どのような教師像を目指すか

「信頼される教師」生徒との豊かな関わり合いをもとに、誠実に子供と向き合う教師を目指します。

・次に教職員間で共通理解した内容になります。エキスパートに頼る「個人戦」より、チームで育てる「団体戦」に。中学校は教科担任ということで、1人の子供に少なくとも10名が授業で関わることになります。それは強みであると思います。

・(1) 健康・安全な生活を基盤とする学校、責任は取るより前に果たすこと

1 身近な事案から自分事として危険を察知する

2 「否定ではなく肯定から」投げかける前の働きかけ

3 初期対応での「最適解」はチームで検討する。そして、相手には「納得解」を得てもらえるように対話する

4 何かがあった時に事後の見守り継続と生徒と保護者の方への声かけを大切にする

・(2) 人間的・社会的な成長を願う学校 卒業後の社会で自立できる「舟中生」。

1 教職員は生徒と1番長い時間を過ごすことへの自覚

2 「ブレない基準」を持った厳しさと優しさでの関わり

3 失敗こそチャンス失敗した後「じゃあ」が言える経験値

・(3) 生徒と豊かな関わり合いを結ぶ教職員 「網をはる」ようなコミュニケーションを

1 組織として「報告・連絡・相談」声にすることで十分共有

2 「職員室に戻ったら一言」

3 まずは「どうした？」で対話が始まる

・(4) 誠実に子供と向き合う教師 生徒それぞれが「階段を一步登るような学び」

1 学校生活の大部分は授業 「できた」を感じられるような授業を

2 ふなはし学び合いスタイルは、個の生きる力を育てる型

ふなはし学び合いスタイルは、学力向上や学習のためだけに作られたものではなく、何か起こった時や困った時に、情報を整理する、そして自分で抱えるだけではなく、家族や仲間など周りと相談したり検討したりして、今1番ベストな方法を見つけて行動するという、舟橋中学校の狙いでもあります。

3 「教えるプロは学ぶプロ」往還する授業力向上と学力向上

・アクションプランについては、「知」「徳」「体」で内容は違いますが、一貫して大切にしているのは、指示して子供を動かすということではなくて助言するということで、子供たちが自分たちで選んだり、判断したり動いたりということを狙っております。

・今年度変わった大きな特色としては「体」に関するところですが、生活ノートの内容が舟橋中学校独自のものに大きくリニューアルしました。to do リストや、メディアに使う時間は何分？など今日の振り返りができるようなシステム形式になったので、これを使って自分で自己管理できる生活を目指しております。

・令和7年度の研修主題は「自ら考え、共に学び合う生徒の育成」です。特に今年度は生徒同士、教職員同士の対話を大切にしていこうと考えております。

・5月31日に創立75周年記念式典の方を開催いたしました。セレモニーだけではなく、卒業生の方々にご協力いただいて、未来に向けて、様々な世代の15名のゲストティーチャ

ーとのグループトークを行い、子供たちと有意義な時間を過ごさせていただきました。また、式典 に先立って、前日の5月30日に全校道徳を実施しました。学校運営方針との関連ということで、教職員だけでなく、全校生徒へのふなはし学び合いスタイル実践周知の機会とすること、日頃から培われた3年生のICT活用力を生かし、全校生徒の学び合いを实践すること、個々の役割と持ち味を生かしたティームティーチングにより、全ての教職員が学び合うとすることを実践しました。教職員が予想していたよりもはるかに子供たちは深い学びをしておりました。

・今月予定している地域学校保健委員会では、教務主任が中心となり、2年生もこのICTを生かした小学校5年生との合同学習を今準備しております。みんなで一緒に対話して、そして学び合うそんな機会を实践していきたいと思ひます。

①②に対する質疑応答

(問) 学校と行政との連携がうまく取れていないように思ひが。情報の共有ができてないと感じることがあります。

(答) 学校は学校教育という子供を教える立場にあつて、教育委員会はバックアップするという風に考へていただき、日々の細かな問題は学校と保護者で話し合いをして、その結果についての情報は共有しております。

例えば台風が来たときは、教育委員会と小中学校間で連携して対応をそろえるなど、日々相互に相談し、進めております。

(問) 学校運営協議会の委員として、どのようなことを求められているのか？また、保護者の思ひとして、川の活動とかは子供たちがすごく楽しいと言っており、学校で地域ならではの活動をやっていただけると、子供たちも住んでいるところが良くなっていったりするのを感じられると思ひます。自分達が生活しているところに関わる学習というのを、これからも取り入れて欲しいなと思ひている。先生の授業がすごく面白いというような話を家でもするので、やはり子供たちは授業を見て、どの先生が信頼できるかっていうのもすごく判断しているなと思ひます。是非これからも楽しい授業をしていただければありがたいなと思ひている。

(答) 一昨年に出来たコミュニティスクールとは、学校を広く地域に解放し、学校運営に関して地域の方々の意見を取り入れましようというのが大きな目的です。ですので、学校運営協議会の委員の方は、コミュニティスクールの中の核になっていただき、小中学校の学校運営の基本方針を承認するということが1番の目的であります。

承認の確認

・挙手全員により、協議事項①②は【承認】されました。

③学校予算の概要、施設設備等の整備について

〈事務局〉令和7年度歳出予算の概要を説明

(共 通) 【新規】滑川中新川地区教員人材バンク事業

【継続】令和のとやま型教育推進研究委託事業交付金

(小学校)	【更新】 I C T環境機器整備 (校務用 P C, 指導者用タブレット) 【新規】 スクールサポートスタッフ配置負担金 【更新】 保健室環境整備 (冷蔵庫) 【更新】 音響設備整備 (ワイヤレスマイク)
(中学校)	【更新】 放送設備配線等改修工事 【更新】 I C T環境機器整備 (校務用 P C, 指導者用タブレット) 【更新】 外部放送設備 【新規】 スクールサポートスタッフ配置負担金 【更新】 体育備品購入 (剣道防具) 【更新】 音楽教材購入 (観賞用 D V D教材) 【継続】 英語検定料補助
(会 館)	【更新】 移動観覧席制御システム更新 【更新】 自動体外式除細動器一式
(図書館)	【更新】 自動体外式除細動器一式

④地域学校協働活動について

- ・ふなはしテトラ学習会を1年通して毎週月曜と木曜日に行っております。学習支援員は大学生が数名、一般の方が2名で運営しており、参加者は小学生3年生から6年生まで現在16名で、中学生が3名です。残念ながら中学生が少ないので、中学校の方で宣伝していただき、どんどん来ていただければと思っております。
- ・学校手伝い隊に5名程登録していただいております。主に花壇の世話をさせていただいております。また、ながら見守り隊が140名ほど村内におられます。のぼり旗と横断幕の方を設置し、防犯に努めたいという風に思っております。
- ・中学校の14歳の挑戦が6月30日から1週間実施されます。
- ・川清掃は昨年度までに3回実施しました。会館の裏の200mほどのところだけで、2tから4tのゴミが出ます。子供たちが一生懸命活動してくれたおかげで、海岸の横に大きい看板が立ち、昨年も自主的に川掃除をしてくれました。

④に対する質疑応答

(問) 小学校のトイレが汚いです。子供たちが学校でトイレ行くの嫌がるのでは? 小学1,2年生にはトイレ掃除は難しいと思う。年に数回でも業者に頼めたりはしないのか?

(答) 年に1,2回業者さんに清掃を頼んでいます。ただし、トイレだけというわけにはいかないのですが、お願いしたいと思っております。中学校の方は昨年校舎内のトイレを全部洋式化し、子供たちが喜んでおります。

(問) テニスコートの一面が張り替えられ、すごく良くなった。残り2面の張り替えは?

(答) 今年度中には張り替えることになると思います。ナイター照明も今後設置予定で進めております。

承認の確認

- ・ 挙手全員により、協議事項③④は【承認】されました。

(3) 閉会挨拶 〈前原副会長〉

- ・ 中学校創立75周年式典に出席をさせていただきまして、何人かのグループの方々とお話をさせていただきました。しっかり挨拶もできるし、人の話もしっかりと聞いてくれ、何より話をした時に目と目を合わせてくれ、非常に感動しました。
- ・ 子供たちも私たちも色々と意見を出し合いながら、いい意味でもっとびっくりするようなことが増えるような学校にしていっていただくようにご理解いただきたいなという風に思います。

〈事務局より〉

- ・ 次回は8月頃に部会を開催する予定です。